

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成30年2月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山性地震は少ない状態で経過しています。

女岳^{めだけ}では地熱活動が続いており、火山性地震の増加が時々みられますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①）

仙岩峠監視カメラ（東北地方整備局）による観測では、女岳からの噴気の高さは30m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・地震や微動の発生状況（図2-②③、図4、図5）

火山性地震は少ない状態で経過しました。男女岳山頂付近を震源とする火山性地震が2017年7月以前と比較してわずかな増加傾向が認められています。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図3、図7）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図1 秋田駒ヶ岳 女岳周辺の噴気の状況（2月27日17時00分頃）

- ・仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による映像です。
- ・赤丸で囲んだ部分が、女岳からの噴気で噴気の高さは30mです。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成30年3月分）は平成30年4月9日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

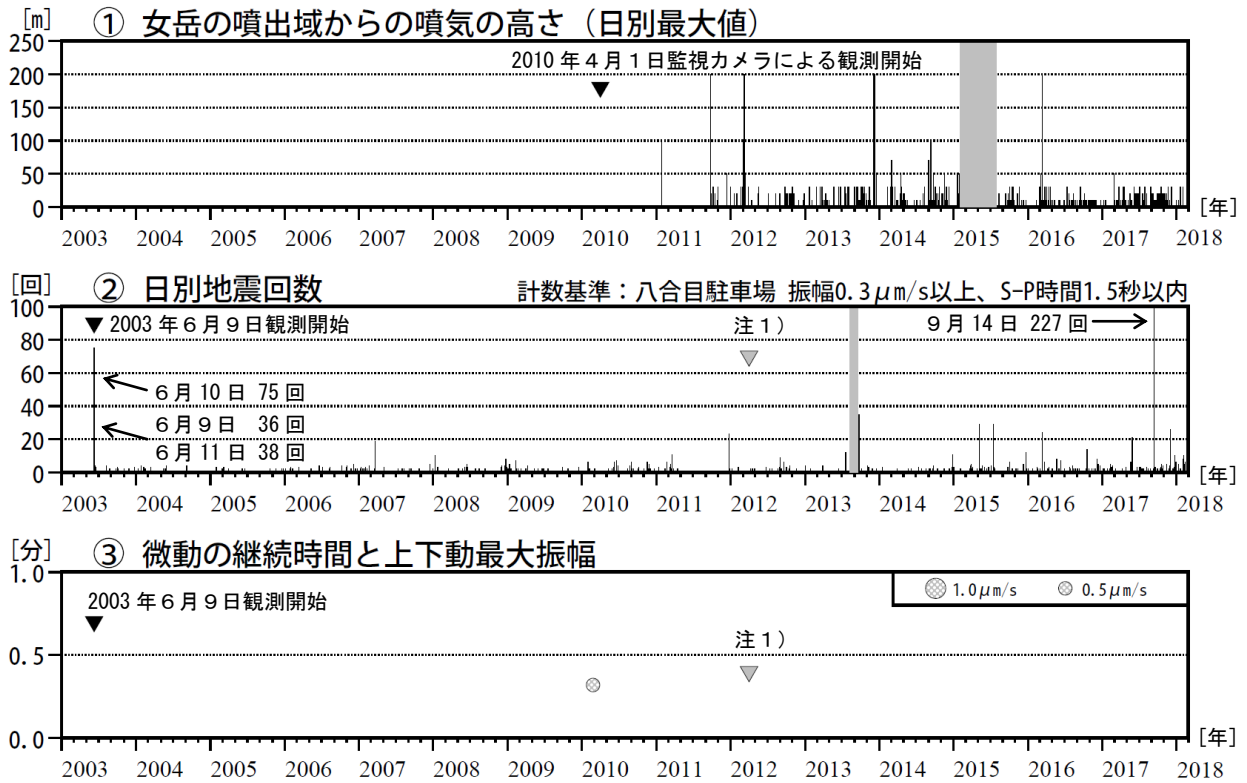


図2 秋田駒ヶ岳 火山活動経過図（2003年6月～2018年2月）

- ・①仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置されている監視カメラ（東北地方整備局）による観測です。
- ・①②の灰色部分は欠測を表しています。
- 注1）観測開始の2003年6月9日から東北大学秋田駒ヶ岳観測点を基準としていましたが、2012年4月1日から八合目駐車場観測点を基準としています。

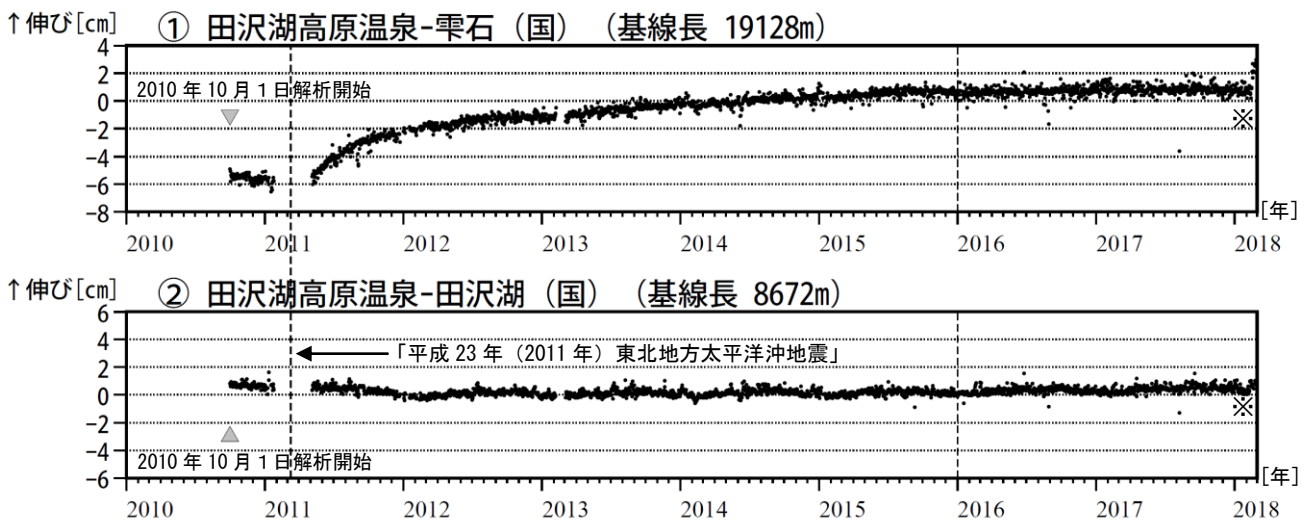


図3 秋田駒ヶ岳 GNSS¹⁾ 基線長変化図（2010年10月～2018年2月）

- ・①の基線では、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～②は図6のGNSS基線①～②に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・（国）は国土地理院の観測点を示します。
- ・2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。
- ※田沢湖高原温泉観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。
- 1) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。

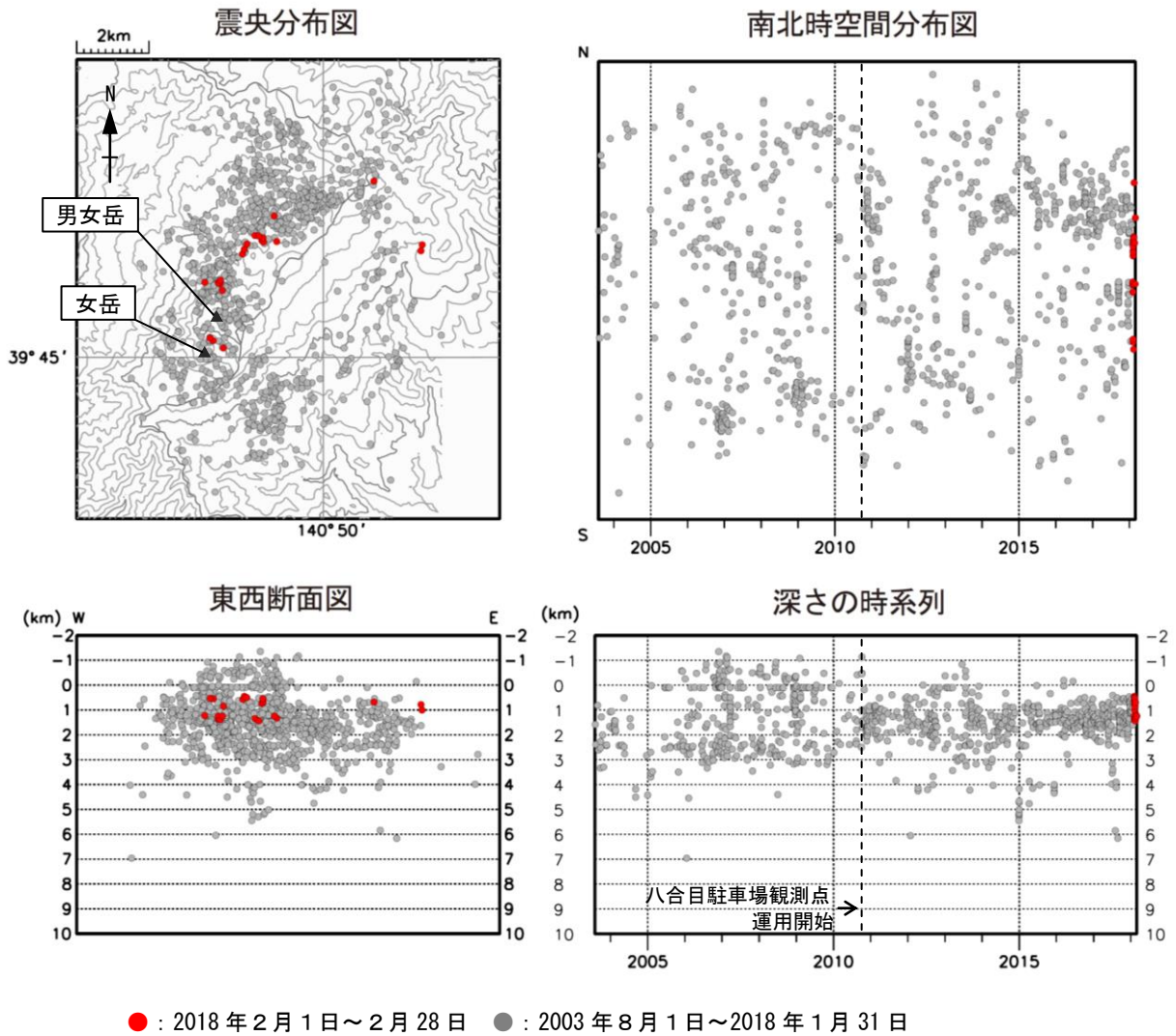


図4 秋田駒ヶ岳 地震活動（2003年8月～2018年2月）

・2010年10月7日以降、八合目駐車場観測点の運用開始に伴う影響がみられます。

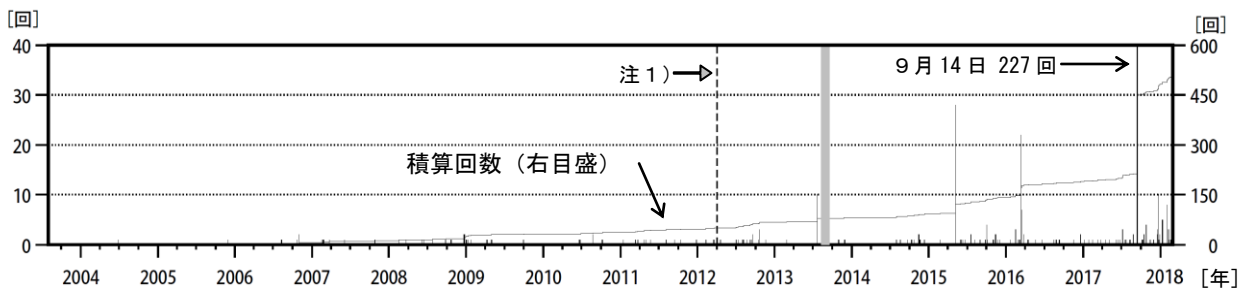


図5 秋田駒ヶ岳 山頂付近の日別地震回数（2003年8月～2018年2月）

・注1)は図2に同じです。
 ・灰色部分は欠測を表しています。

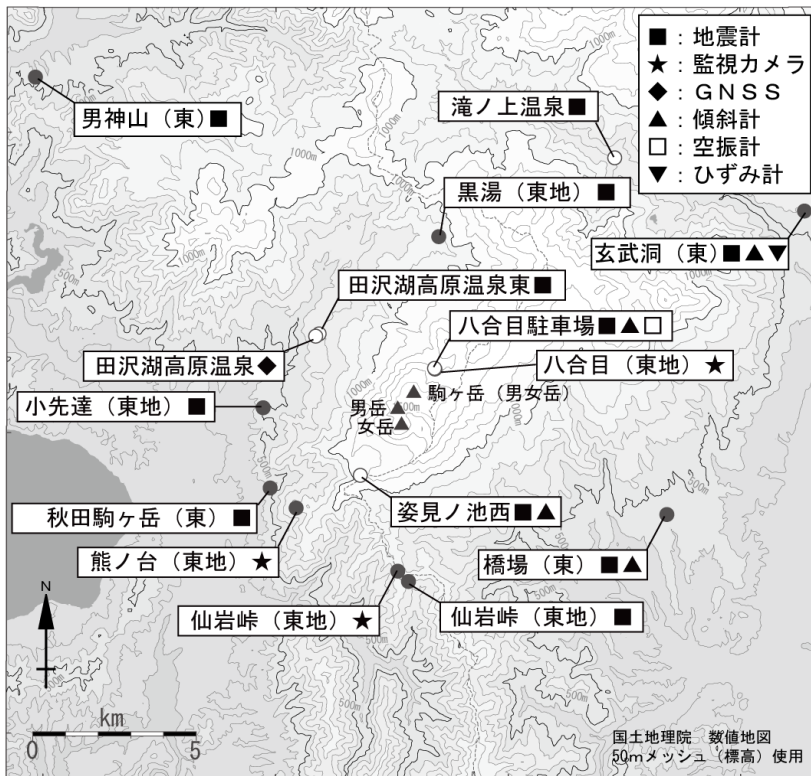


図6 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。

（東地）：東北地方整備局 （東）：東北大学

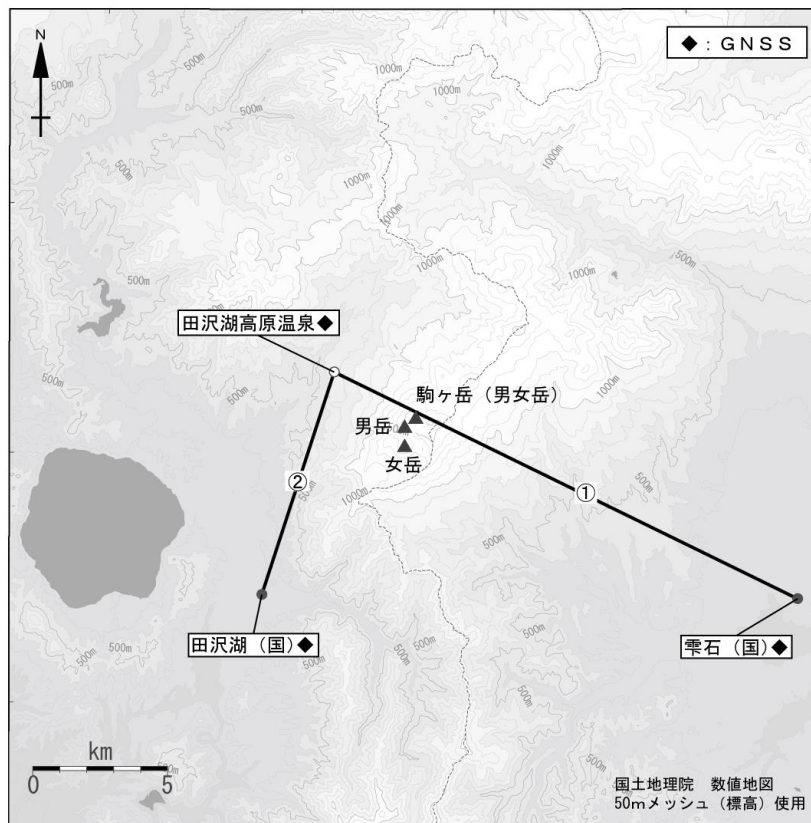


図7 秋田駒ヶ岳 GNSS 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点の位置を示しています。

（国）：国土地理院